

実況中継「土曜講座」

第5号

2022年7月12日発行

市川学園6月4日の土曜講座 於 多目的ホール

北畑隆生先生

職業としての公務員 私の公務員人生のビフォーアフター

開志専門職大学学長
元 経済産業省事務次官



北畑隆生先生のご紹介

- 1950年 兵庫県生まれ
- 1972年 東京大学法学部卒業
- 同年 通商産業省入省
- 2006年 経済産業省事務次官
- 2008年 経済産業省退官
- 2010年 神戸製鋼所社外取締役（現職）、丸紅社外監査役（現職）
- 2013年 学校法人三田学園理事長（～2019年）
- 2020年 開志専門職大学学長（現職）

主な講義内容の紹介

国内外の諸問題の特徴は、単純な解決策が存在せず、様々な分野が関連しているというものであり、それらの問題を解決する公務員という職業はやりがいのあるものであるということを、北畑先生が自身の官僚としての経験を交えながら力説される講演でした。

公務員には若い時期に海外留学の機会があることや、幅広い知識や経験を得ることができること、人脈を形成できることなどのメリットがあるとのこと。さらに、業務で培ったこれらの経験を活かして、政治家・研究者・起業家等に転身する人も多いということでした。

職業人としての人生が50年以上続く中で、社会が大きく変化したときに「不本意な転職」（＝主体的な転職ではなく、辞めざるを得ないことによる転職）をしないためには、生涯学び続ける習慣を身につけることや、生徒会・部活・ボランティア活動等で対人能力や説得力・表現力を磨くことなどが重要であることを北畑先生は説かれました。

最後の質疑応答における、「安定しているということを公務員志望の動機にする人もいるが、それだと仕事は面白くない。やりがいのあるものを見つけることが重要」というお話は、今回の講座における「公務員とは何か」を端的に表した言葉であると思われます。

受講レポートから

- ・ 今まで経済産業省についてくわしくは知らなかったのですが、今日は経済産業省のことをきけてよかったです。公務員のこれまでのイメージは、とてもいそがしいわりに給料が少ないといういわゆるブラックなもので、上下関係もとても厳しい職であるというものだったのですが、今回の講演によって、とても大変な仕事であることには変わりはないけど、とてもやりがいのある仕事で、様々な経験もできるものであると思いました。それ以外にも、一生の友達をつくる意味や委員会・部活動をやる意味のようなものも学ぶことができました。（中1女子）
- ・ 経済産業省は自分が思っていたよりもたくさんに関わっていて、様々な活動をしているのでとても驚きました。日本の組織なので、私は経済産業省は日本の経済についてしか関わっていないものだと思っていたけど、経済のこと以外にも、例えば環境のために「クリーンエネルギー自動車インフラ導入促進補助金」を渡したり、教育のために「STEAM」をつくったり2025年の大阪関西万博にも関わっていて、さらには世界の問題を解決しようと経済の情報を集めたり、物資や資金を支援したりと、とても規模の大きいものだったので感動しました。また、人口の減少がGDPなど様々な所に影響を与えているということにも驚きました。人口問題はこれから何年も日本の大きな問題になるのだと思うと、まだ中学生の私達もしっかりと考えていかなければならないことだと気付きました。経済産業省の業務「ビジョン」「インフラ」「ルール」「インセンティブ」は、日常生活でも活用できる考えだと思いました。（中2女子）
- ・ 現在公民の授業で習っていることが、今回の講座と関連していて、より深く学びを得ることができた。公務員はかたいイメージがあったが、北畑先生の実体験を聞いてイメージが変わった。経済産業省に限らず、様々な所で活動をされていて、公務員が「繊維」や「スペイン」といった具体的な何かに関わることがあるということがおどろきだった。自分も公務員も視野に入れていたが、今回の話を聞いて具体的にどのような事に関わりたいか決めていきたいと思った。特に「清潔」というところが良いなと思ったので、公務員になれるような人間性でありたいと感じた。（中3女子）
- ・ 今まで省や庁へのイメージは難しそうというもので、自分とは程遠い存在だと思っていた。しかし、今回の講義を聞き、今まで無縁な存在だと思っていた経済産業省が、自分の身近なものであり、面白い魅力的なものだとわかった。このことから、私はこれまで自らのイメージのみで将来の職業を選んでいくことがわかった。私はまだ自分の夢が決まっていない。これから職業を選んでいく上で、職業について知ることは非常に重要なのだとわかった。実際にこの講義で一つの職業を知り、自分の世界が広がった気がした。自らの好きなことを見つけそのための勉強を頑張っていきたい。（高1女子）
- ・ 表面に見えない様々な仕事があることが分かった。国家公務員は内閣総理大臣や大臣などの言われた通りに仕事をこなすだけだと思っていたが、実際には大まかな指示しか出されず、その指示を達成するために具体的な法律案を自ら作ったり、どのようにして達成するか、誰と交渉するかなどを決める自由があり、その時の周囲の評価が高ければ高いほど出世していくという世界はおもしろく、達成感があると思った。人口問題やエネルギー問題を解決するのに必要な手順に正解はなく、国民の多様な問題に取り組み、日本の未来を救うことができる職業で、やってみたいと思った。また、日本の問題は無尽蔵にあることを知り、尽きることのない大きな問題を解決できる人になりたいと思った。（高2男子）



（文責：南 信彦 先生）